

1 学校として目指す授業

深い学びにつなかるように、活動が目的にならない主体的・対話的な取組を入れた、生徒がその授業でのゴールの見通しを持てる授業。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語では知識・技能は都の平均を上回るも、思考判断で2ポイント以上下回った。領域では特に「読むこと」が3ポイント以上低かった。問題形式では短答式や記述式での正答率が低かった。数学では多くの項目で都の平均正答率を上回ったものの、図形・関数が都の平均を下回った。	生活習慣では、都や全国の平均よりもスマートフォン利用時間が少なく、朝食を食べている率が高いが、夜寝る時間が不規則な生徒が多い。「将来の夢や目標を持っている」のポイントが低かった。授業で「工夫して考えを発表する」「新聞を読んでいる」が都や全国よりも半分程度と極端に低かった。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

学習する理由については、「しっかり考えられるようになりたい」や「将来の仕事や生活に役立つ」の項目が他よりも低く、現在学習していることが自分の将来や学習する意味と結びついていない生徒が多い。国語の学習では、考えながら読むことに対しての意識が全体的に低くなっており、数学では文章問題を図や表にしようとする意識が特に低くなっており、問題に対して考えながら取り組む姿勢に全体として意識が低い傾向がみられる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

国語では市の平均を総合点で3ポイント下回っていた。観点別でみると、知識・技能は-0.8、思考・判断・表現は-4.6となっていた。数学では市の平均を総合点で3.4ポイント下回っていた。観点別でみると、知識・技能で-3.3、思考・判断・表現は-3.6となっており、図形とデータ活用がとりわけ市の平均と比べ低かった。なお、分布グラフを見ると国語と数学両教科とも、成績下位に相当するD層が市の平均よりも多く、3割を占めている。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
全国・体力運動能力テスト、意識調査では学校平均が全国平均を下回った種目は握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳びの4種目である。特に反復横跳びは大きく下回っているため、敏捷性が学校全体として低いことが分かる。学年で見えていくと2年生はほとんどの種目で全国平均を下回っている。意識調査からも2年生では「保健体育の体育を楽しんでいますか」や「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか」などの多くの質問で他学年よりも肯定的に思っている割合が低く、運動やスポーツに対する苦手意識や重要性を感じられていない傾向がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

3年生は落ち着いて授業に取り組めているが、1・2年次の基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分で、学習に対して発表や発言に対して自信の無い生徒が多い。2年生は全体としては落ち着いて授業に取り組めているが、学力下位層の割合が高く授業に対して無気力になりがちな生徒が多く、授業において生徒同士が活動を通して意見交換をする学習場面などに課題がある。1年生は小学校で学ぶ基礎的な計算の習得が不適切な生徒が一定数おり、中学校の学習を進める上での課題となっている。また、全国学力学習状況調査の結果より、全体として家庭学習の基礎や習慣化など家庭との教育の連携も課題である。

4 学校全体の授業改善の視点

- ・日頃から、間違いや失敗、できないこと、個性を認め合う人間関係の育成
- ・学校で共通した授業スタイルの充実と深化
- ・その時間で身につけるべき力が明確で、まとまりのある1単位時間の授業

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	自分の思考を言語化する訓練を取り入れる。文章読解の学習の後、自分の意見をまとめたり伝えたりする活動を行う。		プリントの最後に振り返りの欄を設け、本時で学べたことを明確化させる。		毎授業開始時に計算トレーニングを行い、習熟度別に扱う問の量と質を調整する。		定期的な小テスト等を実施し、生徒の達成度を把握し、導入時の復習で定着を図る。		授業で習得した知識・技能を活用して、パート練習の活動の中で、主体的に取り組むように指導する。		各単元の導入で、短時間の演習課題を行い、基礎基本の定着を図る。		敏捷性を高めるために、体操のほかにもラダーなどの補強運動を取り入れていく。		授業の最後に振り返りの時間を設け、本時の学習内容を確認することで授業内容の定着を図る。		多様なアクティビティ等活発な活動を取り入れ、多面的に文法と単語の定着を図る。		話し合い活動を充実させ、多様な考えや価値観に触れ、学び合うことで視野の広さを養う。	
2学年	自分の思考を言語化する訓練を取り入れた指導を行う。文章読解等で自分の意見をまとめたり伝えたりする訓練を行う。		単元の課題を明確にして、単元の最後に、復習・まとめを行う時間を確保する。		毎授業開始時の計算トレーニングや定期考査の振り返りテストを行い、生徒の理解力把握に努める。		問題演習量を増やし、生徒自身で演習に向き合い、思考力を高めるように、指導をする。		授業で習得した知識・技能を活用して、パート練習など、協働的な活動の中で思考力を養う指導をする。		各単元の導入で、身近な作品やデザインを扱い、主体的に制作できるよう指導する。		動画での撮影など上達していくことを実感できるようにしていき、運動の楽しさや充実感を感じられるようにする。		授業では生徒の生活に即した内容を扱い、自ら進んで問題を解決するための活動を多く取り入れ、生徒主体の授業を行う。		ポートフォリオで、単元目標を明確にし、授業の最後で英作文を書かせ、目標となる英文法の定着を図る。		話し合う活動を充実させ、多様な考えを聞き、個性を認める人間関係や視野の広さを養う。	
3学年	着目した内容を取り入れながら、本文全体の要約をする訓練を行う。表現の工夫を意識して文章の読み書きをする活動を取り入れる。		継続して自分の言葉で1時間や1単元で学んだことを振り返り記載させる。		毎授業開始時に計算トレーニングを行い、知識・技能の定着を図るとともに、単元テストを行い、生徒の理解力把握に努める。		生徒主体で課題設定を行い、主体的な学習活動につなげる。		授業で習得した知識・技能を活用して、パート練習の活動の中で、思考力・判断力を高めさせる。		知識・技能を応用し、自己表現に発展させるため、思考判断の時間を十分作り指導する。		小グループワークを意図的に設定し自分の考えを伝える機会を多く確保する。		授業で習得した知識・技能を活用した発問を通して、思考力・判断力を高めさせる。		学校の学習が生徒自身の学習方法の確立につながるような指導を行っていく。		意見交流を充実させ、多様な考えや価値観に触れることで視野の広さを養う。	